

令和4年度事業報告

事業概要

「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年の育成を図ること」を目的としており、この目的を達成するため、山梨県から指定管理者として指定を受けている4施設の管理運営を行うとともに、これらの施設等において、「青少年の自然体験、生活体験、奉仕体験などの体験活動を推進する事業」、「こどもや親子の自由な遊びやふれあいを促進する事業」、「青少年の文化、教養、スポーツ活動を促進する事業」等を展開した。

また、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業実施の制限があったものの、感染症対策を行ったうえでの利用者受け入れと事業実施により、昨年度に比べ利用者、事業参加者とも大幅な増となった。

職員の状況

施設名	区分	4年度	3年度	増減
青少年協会	常勤役員	1	1	0
青少年センター	協会常勤職員	8	8	0
	契約職員	6	6	0
	計	15	15	0
愛宕山こどもの国・少年自然の家	協会常勤職員	6	6	0
	契約職員	4	4	0
	計	10	10	0
八ヶ岳少年自然の家	協会常勤職員	6	7	△1
	契約職員	4	3	1
	計	10	10	0
合計	常勤役員	1	1	0
	協会常勤職員	20	21	△1
	契約職員	14	13	1
	計	35	35	0

事業実施状況

I 法人会計 協会の運営

- 1 理事会等の運営、理事会、評議員会等の諸会議を開催し事業を推進した。
- 2 本協会が実施する事業推進のため、集中経理によるコスト節減や自主財源の確保に努めた。

理事会決議事項

回数	開催年月日	決議事項
第1回	令和4年 4月 20日 (決議の省略)	1 令和4年度第1回評議員会開催の件 2 規定の改正の件
第2回	令和4年 5月26日	1 令和3年度事業報告の件 2 令和3年度収支決算の件 3 令和4年度定時評議員会開催の件
第3回	令和4年 12月13日 (決議の省略)	1 令和4年度第3回評議員会開催の件
第4回	令和5年 3月 8日	1 経営計画策定の件 2 特定費用準備資金積立の件 3 令和5年度事業計画の件 4 令和5年度収支予算の件 5 役員賠償責任保険加入の件 6 主たる事務所移転の件 7 令和4年度第4回評議員会開催の件

評議員会決議事項

回数	開催年月日	決議事項
第1回	令和4年 4月 27日 (決議の省略)	1 理事補充選任の件 2 評議員の補充選任の件
定時	令和4年 6月 21日	1 令和3年度収支決算の件
第3回	令和4年 12月 21日 (決議の省略)	1 評議員補充選任の件
第4回	令和5年 3月 17日	1 特定費用準備資金積立の件 2 令和5年度事業計画の件 3 令和5年度収支予算の件

Ⅱ 公益目的事業会計 施設管理運営

施設利用状況

施設名	4年度 (人)	3年度 (人)	前年度対比	
青少年センター	109,978	111,647	△1,669	(△1.5%)
愛宕山こどもの国	159,636	143,756	15,880	(11.0%)
愛宕山少年自然の家	4,660	3,333	1,327	(39.8%)
八ヶ岳少年自然の家	28,857	15,328	13,529	(88.3%)
合計	303,131	274,064	29,067	(10.6%)

主催事業及び自主事業集計表

施設名	4年度 (人)	3年度 (人)	増減	
	実施事業数(予定)	実施事業数(予定)	事業数(件)	
	参加者数(人)	参加者数(人)	参加者数(人)	
青少年センター	35(37)	25(29)	10(8)	
	5,623	999	4,624	(462.9%)
愛宕山こどもの国	20(20)	18(17)	2(3)	
	11,559	15,154	△3,595	(△23.7%)
愛宕山少年自然の家	14(14)	10(11)	4(3)	
	835	405	430	(106.2%)
八ヶ岳少年自然の家	22(23)	16(22)	6(1)	
	7,331	1,899	5,432	(286%)
合計	91(94)	69(79)	22(15)	
	25,348	18,457	6,891	(37.3%)

1 県立青少年センター管理運営事業

青少年センターの設置目的である「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年育成を図ること」を達成するために、利用者にとって快適な利用環境を常に保てるような施設管理・運営を行った。

また、旧リバース和戸館(現本館)のリニューアル工事のため会議施設・体育施設の利用が縮小されたが、利用者の満足度を維持できるよう親切、丁寧な周知と対応に努めるとともに、主催事業・自主事業の実施により利用促進に取り組んだ。

施設利用者 109,978 人(前年度 111,647 人)

(1) 快適な利用環境を整備し、利用者サービスを向上

安全で快適な活動、研修、交流の場を提供するため、毎日の巡回点検を基本に、週1回の環境整備、休館日を利用しての一斉点検・整備、専門業者によるメンテナンスを実施した。また、新型コロナウイルス感染予防のための施設整備やガイドラインを随時更新し、利用者が安心・安全かつ快適に施設を利用できるよう努めた。

(2) 積極的な広報活動

近隣の小中学校に各種イベント情報のチラシを送付するとともに、従来から活用しているホームページの更新やツイッターなどの SNS を活用し、身近な情報発信に努めた。

(3) 主催・自主事業の充実

健全な青少年の育成を図るため「各種のスポーツ教室事業」、「様々な体験活動を行える事業」、「相談支援事業」、「青少年育成山梨県民会議」事業など、時代に即した課題や魅力あるテーマにより実施した。

青少年センター主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
知ろう！やってみよう！みんなでパラスポーツ	障がいのある人もない人も一緒にパラスポーツを楽しむことで、パラスポーツを知り、障がいの理解や仲間作りを通して障がいのある人の社会参加を推進することを目的とした山梨県主催、山梨県障害者福祉協会主管で開催する「パラスポーツやってみるじゃんフェスティバル」を誘致し、共生社会の実現を目指すきっかけとした。	11月 1回	207
めざせ！法律マスター～模擬裁判をやってみよう！～	模擬裁判を通して、ルール作りや法律などを理解し討論する中で、論理的思考力・コミュニケーション技術を身につけ、健全な青少年の育成に寄与した。	12月 1回	42
ちぎって！はって！親子でちぎり絵	ちぎり絵作りを通して、もの作りの楽しさを体験し、創造性を育んだ。また親子での創作活動だったため、親子間のコミュニケーションの促進につながった。	11月 1回	33
地域交流事業	甲運地区防災訓練に職員が参加し、地域との連携を深めた。	11月	300
居場所づくり	本館2階のスペースを活用し、誰もが安心して交流できる「居場所スペース」を提供する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用不可とした。	中止	

施設利用促進事業	プール閉鎖前の集大成として「富士山まで泳ごう～センターからの挑戦状～」と題し、プール利用者に60km完泳を目指してもらった。また、マスコミなどへの施設情報の掲載や、ホームページ・SNSを充実させ、青少年センターの周知を行い、新規利用者の確保と定着を図った。	通年 随時	
青少年センターボランティア推進事業	青少年センターが主催する各種事業にボランティアとして参加してもらい、子どもたちのリーダーとして活躍してもらった。	通年 随時	24
若者相談室(コンサルテーション・ビューロー)事業	ニート、ひきこもりを含む若者無業者を中心に、様々な悩みを訊き、その悩みを解消するため、必要に応じて専門機関への橋渡し等の支援を行った。	通年	324
レクリエーションインストラクター養成講座	地域や職場で社会活動や奉仕活動を行うにあたり、レクリエーションインストラクターとして実践していくための知識や技術を学んだ。	7月～2月 9回+補講1回	33
おやこで運動塾～かけっこ～	専門の指導者から、かけっこにおける脚の上げ方、腕の振り方などを学んだ。また、親子で運動技能を習得することで、継続的な運動習慣の定着を目指した。	5月、2月 2回	98
運動塾～器械体操～	子どもやその保護者が楽しみながら運動技能の習得や継続的な運動習慣の定着を目指し、専門の指導者から、器械運動の回転や倒立、鉄棒運動などの基礎的な動作を学んだ。	6月、12月 2回	49
おやこで着衣泳～水難事故から身を守る～	「着衣水泳」を体験し、水難事故から身を守る方法と二次災害の防止方法を身につけてもらった。	7月 1回	64
作って！ねらって！撃て！水鉄砲スナイパー	水鉄砲づくりを通して、ものづくりの楽しさを味わい、技巧性を養いながら自分が作成したものに愛着を持ち、大切に作る心を育てた。また、水鉄砲遊びを通して、グループ対抗で元気に走り回ったり、遊んだりする機会を提供した。	7月 1回	54
フライングディスクをやってみよう！	本格的なフライングディスク競技の体験を通して、学校以外の仲間づくりや親子での活動の中で親子の触れ合いの場を提供することにより余暇の充実を図った。	11月 1回	15
Let'sトライ！タグラグビー！	タックルなどの身体接触プレーがなく、安全に楽しめるタグラグビーを通じて、体を動かす楽しさ、互いを尊重すること、チームスポーツの楽しさを学んだ。	1月 1回	16
センターまつり	各種体験会、発表会、出店等による(文化)祭を実施し、地域に根差した施設を目指した。同時に文化・情報の発信地としての機能をセンターが担い、参加者に楽しい1日を提供した。	10月 1回	1,571
青少年・青少年育成功労者等表彰事業	青少年健全育成の一層の促進を図るため、善行青少年及び青少年健全育成功労者等を表彰した。	随時	3
白ポスト事業	青少年にとって有害な図書等の回収のため、JR 駅等に設置した白ポストの維持管理を行った。	通年 随時	

青少年センター自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
山梨県児童館連絡協議会(共催:愛宕山こどもの国)	会員相互の連絡提携により、児童館運営の充実を図り、児童の健全育成を図った。	通年	60
児童健全育成推進財団事業(共催:愛宕山こどもの国)	児童館・放課後児童クラブの機能と活動内容について理解を深め、子どもたちの遊びや生活を通じた発達支援に直接的にかかわる児童厚生員の資質や意識の向上を図った。	6月1回 7月1回 9月2回	80
放課後児童支援員認定資格研修事業(共催:愛宕山こどもの国)	放課後児童支援員として必要な「基本的な生活習慣の習得の援助」、「自立に向けた支援家庭と連携した生活支援等に必要な知識・技能」を習得する研修会を開催した。	9月4回 10月2回	517
各種機関連携事業(共催:協会4施設)	各種プログラム提供や他機関事業への職員派遣、事業の協働実施により、効果的な青少年健全育成事業を行った。	通年 随時	146
SDGs 推進講座～親子でプログラミングデビュー～	山梨県産の木材の本棚を使用(地産地消:住み続けるまちづくり、つくる責任つかう責任、気候変動に具体的な対策を)し、プログラミングによる本の戻し忘れといった身近な課題を解決する方法を学ぶとともに、自主的に考え、解決する力の育成＝持続可能な社会をつくることにつながることを理解した。	4月 1回	35
備品貸し出しサービス	スポーツ用具を持参しない利用者には有料で用具を貸し出し、その収入を必要備品のメンテナンスと更新(購入)に充てることで、備品の状態・数量を常に良好に保ち、利用者の利便を図った。	通年 随時	
利用者支援サービス	本館、リバース和戸館の窓口にてコピーサービスを提供し、利用者の利便性の向上を図った。	通年 随時	
学習スペース提供事業	自宅に学習環境の確保が困難な中学生・高校生に自主学習の場を提供する予定であったが、提供場所のリバース和戸館リニューアル工事が入ったため中止とした。	中止	
「甲運小学校区放課後子供教室」(共催:協会4施設)	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	6月から1月(長期休暇を含む)全 10回	190
グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフの愛好者に活動の場を提供するとともに、参加者同士の親睦を深め、仲間づくりを進めた。またグラウンド・ゴルフの普及振興を図り、健康づくりに寄与した。	6月、11月 2回	78

青少年センター自主事業実施状況(青少年育成山梨県民会議事業)

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
「あいさつ・声かけ運動」市町村民会議等普及事業	「あいさつ・声かけ運動」を全県的に展開するため、各市町村への働きかけと、街頭キャンペーンを実施し、「あいさつ・声かけ運動」を推進した。	通年 随時	1,500
中高生のネット・ワークショップ	青少年同士が「インターネット利用の問題」や「安心・安全なネット社会」等をテーマに意見交換や討論を行い、インターネットの適切な使い方について理解を深めた。また、インターネットに係るリーフレットを県内中学生及びワークショップ参加者に配布し、広く啓発を図った。	7月 1回	31
「家庭の日」「青少年を育む日」推進運動事業	「大人が変われば子どもも変わる」をテーマに、大人自身の姿勢や大人社会のあり方を省みるきっかけとなる啓発事業を行った。また、「家庭の日」「青少年を育む日」をテーマとした啓発ポスターを募集しカレンダーを作成した。	通年 随時	70
青少年関係 NPO 法人等ネットワーク事業	関係諸団体をつなぐ「ツール」としてツイッターやフェイスブックなどの SNS の活用に加え、新設したメーリングリストを活用し、青少年育成関係団体等における情報の共有化を図るとともに、実施事業、ボランティア情報、各青少年団体から寄せられた情報等を広く県民に発信した。	通年 随時	
子ども・若者支援フォーラム「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」	「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」TSU・NA・GU～家庭・学校・地域・行政の連携で希望ある未来をつくろう～をメインテーマに子ども・若者支援フォーラムを実施した。	2月 1回	35
管理運営(3事業)	県民会議事務局の運営及び事業の円滑な実施を図るため、ホームページによる情報提供や事務局の管理運営等を行った。	通年 随時	
少年の主張山梨県大会	県内の中学生に、広い視野と柔軟な発想や創造性などを育むきっかけとするとともに、物事を理論的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力を身につける機会とした。また、「少年の主張全国大会」へ出場した山梨県代表者は、最高賞である「内閣総理大臣賞」を受賞した。	8月県大会 11月全国大会	48

2 県立愛宕山こどもの国・少年自然の家管理運営事業

甲府駅からも近く、子どもたちがのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努めるとともに、緑豊かな里山の自然の良さを感じながら、施設を利用するすべての方が快適に利用できるための環境づくりに努めた。

また、こどもの国園内にある少年自然の家では、コロナ禍の中、できる範囲ではあるが家庭や学校生活を離れた自然体験活動の支援と普及に努めた。

こどもの国 施設利用者 159,636 人(前年度 143,756 人)

少年自然の家 施設利用者 4,660 人(前年度 3,333 人)

運営方針及び具体的な管理運営

(1) 利用者が安心して、快適に利用するための環境整備と施設管理

毎日行方、朝、夕の定時巡回では、危険箇所の早期発見に努め、危険箇所が見つければ、職員が対応するものと専門業者に依頼して対応するものとに区分して、迅速な施設保守を行い、遊歩道沿いの倒木撤去や植物の保護に努めることで、人が入ることができる里山の環境整備を行った。

また、活動プログラムを行うエリアの実施前点検と活動中の巡回を徹底することで、安心安全な施設運営に努めるとともに、新規プログラムの開発を進めることで利用満足度の増加を図った。

さらに、多くの人出が予想される休日やイベント開催時には、利用者が安全に活動できるように職員を適正に配置するとともに、アルバイトを配置することで安全に配慮した運営を行った。

(2) 地域の団体やボランティアとの連携協働

県内の大学に通う学生ボランティアには、子ども対象事業の補助スタッフとして、子ども達の見守りと体験活動のサポートをしていただき、地元の奉仕団体には、園内の落ち葉やごみ拾いなどの環境整備作業にご協力いただくなど、地域やボランティアとの協働を図った。

(3) 積極的な広報活動

各種のイベントを開催するにあたっては、県内の保育所や小学校などの参加対象年齢に合わせてイベント募集チラシを送付するとともに、ホームページやSNSを活用した広報活動を行った。

また、宿泊室の空き状況など、日々変化する情報についてもホームページを使って随時、情報を発信した。

(4) 主催事業の充実

豊かな自然環境を生かした体験活動や施設の特色を生かした野外活動を通じて、青少年の健全育成を図るとともに、幼児とその保護者を対象とした子育て応援事業や世代間交流を図る事業などを実施することで、子どもの成長に応じた切れ目のない支援に重点を置いて各種事業を企画し、実施した。

愛宕山こどもの国主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
家族で楽しむアウトドア～自然は最高の調味料～	愛宕山の自然の中で、家族で気軽にキャンプ体験を通して、コロナ禍においても出来る自然体験活動の楽しさを知る機会とした。また、家ではできない野外料理や焚き火台を使った活動で、野外活動へ興味を持てる体験を提供した。	9月 1回	32
落葉焚きで焼き芋	園内の落ち葉を集めてもらい、サツマイモを焼く体験を通して、火の暖かさや煙の匂いを感じ、家族団欒の時間を過ごしてもらうとともに、参加者同士の交流を図る機会を提供した。	11月 2回	91

愛宕山で初日の出を見よう！	元旦にこどもの国ゲートを開放し、富士山を正面に甲府盆地を一望できる愛宕山こどもの国を県民に知ってもらう機会とした。午前6時に開園をして展望テラスで初日の出を見る機会を提供した。	1月 1回	424
愛宕山こどもフェスティバル	ゴールデンウィークに工作や遊びなどの体験をとおして、こどもの情操を育むと共に、家族の絆を深める機会とした。 ・鼓笛隊の演奏 ・クラフトやゲームコーナー・飲食ブースの出店・ボランティア団体の出店他	5月 3日間 1回	3,259
親子で出発！わくわく里山たんけん！ (子育て応援事業)	親子で五感を使って自然を感じ、豊かな情操を育むための体験活動への保護者の理解を深めるとともに、大人も子どももコミュニティの幅を広げる機会とした。	5月2回 10月2回 計4回	83
わたしにご褒美！里山でリフレッシュ!! (子育て応援事業)	子育て中の親が、里山の中で体を動かし、リラクゼーション効果を得ることで心身ともにリフレッシュするため、「フェイシャルヨガ(顔)」と「全身を動かすヨガ」を組み合わせた、心も体もリラックスできるヨガを提供した。	5月、10月 計2回	39
幼児向け自然体験活動指導者研修会	指導者が幼児期における自然体験活動の意義や各種提供プログラムのねらい、安全管理の考え方について実践的に学ぶことができる機会を提供した。	10月 1回	20
家族で作ろう！うちの味～手前みそに挑戦～	食育の一環として、家族で「みそづくり」を体験することで、子どもが食べ物に興味を持つきっかけづくりとすることや、味噌を使った郷土食を作って食べることで、食をとおして郷土の産物や歴史などの食文化に触れる機会を提供した。	1月 1回	32
ウォーターチャレンジ！あたごやま	自然の家屋上近くにあるゲーム水路とその周辺を会場として、来園者に楽しんでもらえるような遊びを提供する。ゲーム水路を活用し幼児用手漕ぎボード「パワーパドラー」遊びを提供した。	土日祝日、冬休み、春休み	1,443
自然保育サポート事業	希望した幼稚園や保育園に対し、こどもの国の豊かな自然環境を活かした幼児期の自然体験活動の支援を行い、「生きる力」を育む機会を提供した。	通年	1,123
あたごやまイベントフィールド365	自然の家屋上ではコマ回しやけん玉、輪投げなど昔あそび体験やミニセグウェイ体験、遊歩道ではチョークでお絵描きコーナーなどの遊び場を提供した。また、遊びの中で家族間や参加者同士の交流を図るとともに身体を使った遊びの楽しさを感じてもらおう機会とした。	通年	4,128
愛宕山ボランティアバンク	愛宕山を利用する子供たちの活動をサポートしていただける方々や園内の清掃、整備をしてくれる方、団体を幅広く募集し、豊かな経験や知識、趣味をもった県民の方々をボランティアバンクに登録し、支援してもらおうとともに、活動の場を提供した。	通年 随時	196

広報事業	施設利用者の増加を図るため、県内の幼稚園・保育園、小学校へチラシの送付、新聞や雑誌への広告掲載、SNS等の様々な媒体による施設のPRやイベントの情報発信を広域的に行なった。	通年 随時	
------	--	----------	--

愛宕山こどもの国自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
山梨県児童館連絡協議会(共催:青少年センター)	会員相互の連絡提携により、児童館運営の充実を図り、児童の健全育成を図った。また、会員の資質向上を図るために特別研修会や先進地視察研修、ブロック別研修会等を実施した。	通年	60
児童健全育成推進財団事業(共催:青少年センター)	児童館・放課後児童クラブの機能と活動内容について理解を深め、子どもたちの遊びや生活を通じた発達支援に直接的にかかわる児童厚生員の資質や意識の向上を図った。	6月1回 7月1回 9月2回	80
放課後児童支援員認定資格研修事業(共催:青少年センター)	放課後児童支援員として必要な「基本的生活習慣の習得の援助」、「自立に向けた支援家庭と連携した生活支援等に必要な知識・技能」を習得することを目的とした。	9月4回 10月2回	517
各種機関連携事業(共催:協会4施設)	各種関係機関と連携することにより、効果的な青少年健全育成事業を行う。各種プログラム提供や他機関事業への職員派遣、事業の協働を実施。	通年 随時	
里山再生事業	甲府の里山として親しまれて来た愛宕山の園内遊歩道を中心に整備を行った。	通年 随時	
利用支援事業	こどもの国の駐車場にキッチンカーの出店場所を設けたことで、利用者の利便性や快適性を高めた。	通年	
「甲運小学校区放課後子供教室」(共催:協会4施設)	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。(青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	4月から3月(長期休暇を除く)14回 特別開催2回	32

愛宕山少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
自然の家オープンデー～ありがとう!50年の歴史に幕～	ゴールデンウィーク期間中に自然の家を開放し、「オリエンテーリング」「館内フォトオリエンテーリング」「自然の家思い出の写真展」「焼杉キーホルダーづくり」など自然の家の活動プログラムをはじめとした様々な体験活動を提供した。	5月3日間 各日2回 計6回	217
親子で登ろう!秋のプチ登山	こどもの国園内にある大笠山の周辺の自然を楽しみながら親子で登ることで、絆を深めるとともに、野外活動をおこなうきっかけ作りを提供した。また、こどもの国の魅力を知ってもらう機会とした。	11月 2回	35

あたごやま自然観察会(春・夏・秋・冬)	親子で自然に触れ合うことで、野生動物・植物に見られる多様性を知り、自然環境に対する意識の向上を目指す機会とした。 第1回《春》春の動植物の観察 第2回《夏》セミの羽化の観察 第3回《秋》秋の昆虫の観察 第4回《冬》植物の冬芽、野鳥の観察、動物の痕跡(足跡、体毛)の観察	4月、7月、9月、 2月 計4回	105
森の中の1デイキャンプ	親元を離れておこなう様々な自然体験活動を通し、班単位での活動を通して集団行動の大切さを学び、「学びに向かう力」を育む機会とした。「仲間づくりゲーム」や「フィールドビンゴ」などのネイチャーゲーム、自然物を使った工作を行なった。	5月1回 11月1回 計2回	58
ほっこりふわふわCARINOデイ(子育て応援事業)	低年齢期の子ども達が保幼小接続期の「遊び」から「学びへ向かう姿勢」を育むとともに、保護者には親同士の情報交換や学校生活での実際について知る機会とした。幼児向けに「ネイチャーゲーム」、保護者向けに「子育て座談会」を実施した。	6月 1回	49
蔓取物語～里山を守ってリースをつくろう～(里山再生事業)	甲府の里山として親しまれている愛宕山の整備として、林縁のツル取りを行い、木の実などと飾りつけたリースを作成した。この一連の活動をとおして、森林の光環境等を改善させ、持続的な恵の獲得に繋がっていくという里山の循環の仕組みを学ぶ機会を提供した。	12月 1回	28
つくってみるじゃん正月飾り～世代を超えて伝えたい～(異世代交流事業)	護国神社・甲府遺族会の協力を得て、正月飾りを家族で協力して作成した。伝統や風習を知るとともに、様々な世代の人々の交流を深める機会を提供した。	12月 1回	17
職場体験・インターンシップ受入事業	教育事業や日常の研修支援などの業務を体験することで、早い段階からの将来への明確な目標を構築するための活動を支援として、こどもの国、自然の家の日常業務や、主催事業の業務を体験する機会を提供した。	通年 随時	3
広報事業	施設利用者の増加を図るため、県内の幼稚園・保育園、小学校、中学校へ利用案内やイベント案内の送付、SNS等の様々な媒体による施設のPRやイベントの情報発信を広域的に行なった。	通年 随時	

愛宕山少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
各種機関連携事業(共催:協会4施設)	各種関係機関と連携することにより、効果的な青少年健全育成事業を行った。各種プログラム提供や他機関事業への職員派遣、事業の協働を実施。	通年 随時	
あたごやま親子陶芸教室	日常生活で使用している陶器を製作することによって、作る楽しさや喜びを感じてもらい、親子の絆を深めるきっかけを提供した。2月の回は降雪により3月に延期して実施した。	12月、1月、3月 7回	183

自然の家ファミリーウィーク～家族で泊まって自然体験～	愛宕山少年自然の家に家族で宿泊し、少年自然の家の特色を生かした活動を体験してもらおう事で、自然の家への理解を深めると同時に、親子の絆を感じてもらった。	4月2回 9月1回 計3回	108
利用者支援事業	自然の家を利用する団体や一般の方に活動プログラムの体験等についての支援を行なった。	通年 随時	
「甲運小学校区放課後子供教室」(共催:協会4施設)	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	4月から3月(長期休暇を除く)14回 特別開催2回	32

3 県立八ヶ岳少年自然の家管理運営事業

八ヶ岳少年自然の家では、集団生活の中で自主的・自発的に行動する能力を身につけ、自律・協同・友愛・奉仕の精神を養うことを目的とした「少年団体の活動の場」として、利用者が安心して活動ができる事を業務目標の中心として施設運営を行った。

また、令和3年度に実施したリニューアルにより、改修された施設設備を積極的に活用し利用者満足度の向上と利用者増に努めた。

施設利用者 28,857人 (前年度 15,328人)

(1) 利用者の安心・安全の確保

- ① 職員による毎日の巡回業務および月一回の施設点検により、利用者が安心・安全に活動できる環境づくりに努めた。
- ② 感染症対策として、利用者が安心して施設を利用できるよう、感染拡大防止ガイドラインに基づいた施設運営に努めた。
- ③ 「樹木の立ち枯れ」や「倒木」については、早急に撤去作業を行なった。

(2) 広報活動の充実強化

- ① リニューアルのパンフレットを作成し、関係機関に案内した。
- ② 利用者に必要な情報を分かり易くホームページに掲載し、定期的に更新を行った。
また、Twitter や Facebook などの SNS を活用し、リアルタイムな自然の家の情報を発信するとともに、事業について広く周知を図った。

(3) リニューアルされた設備の積極活用

- ① 新設された本館脇の炊事場を積極活用し利用者満足度の向上を図った。
- ② 全館空調設備とシャワー設備を使い、幅広い利用者ニーズに対応した。
- ③ 新設されたボルダリングや、新規導入したプログラムを活用し、利用者満足度の向上と、利用者増に努めた。

(4) 主催事業の充実

施設の設置目的を重視し、自然環境に恵まれた施設の特性を活かした中で、感染拡大予防ガイドラインに沿って感染状況を見極めつつ、主催・自主事業を年間22事業実施した。※新型コロナウイルス感染症対策のため1事業中止

八ヶ岳少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
八ヶ岳利用者研修会	当自然の家の利用を予定している団体引率者が、集団宿泊活動や野外活動の意義を理解し、活動プログラムを組み立てる上で必要な指導知識や技術の習得を図った。	4月 5月 (日帰り) 2回	61
春を探しに清里へ～GWを楽しもう～	ゴールデンウィーク中に、家族で自然の家に宿泊し活動プログラムを体験してもらうことで自然の家への理解を深めつつ、家族の交流や心身のリフレッシュを図った。	4月29日～5月1日(1泊2日または2泊3日) 1回	47
八ヶ岳少年自然の家の思い出を描く作品展	雄大な八ヶ岳高原の大自然の中で活動した思い出を、子どもたちが自由に絵画で表現することにより、自然の家や自然環境への興味・関心を一層高めた。	応募期間 5～11月 審査会 12月 表彰式 1月 (日帰り) 定員なし	1,235
ファーストステップキャンプ ～意外と簡単？ 家族でキャンプデビュー～	キャンプをしてみたいが経験がない、または道具がない等、キャンプをはじめる一歩が踏み出せないという家族を対象に野外活動の知識や技術を楽しみながら習得した。また、家族で協力してキャンプ生活を送ることで、家族間のコミュニケーションを深め、より良い家族関係を構築する機会となった。	7月 (1泊2日) 2回	95
バンビキャンプ	親子で別々のプログラムを体験する時間を設けることで、子どもは、新しい仲間との集団生活から「自立心」「協調性」「冒険心」を養い、保護者は我が子の新たな一面や成長を認識した。また、保護者向けに育児をテーマとした座談会を行うことで今後の親子の関わり方について考えるきっかけとした。	9月 (1泊2日) 1回	35
地域交流事業	清里地域周辺の住民に施設を開放し、当少年自然の家への理解と利用促進を図るとともに、自然の家職員と地域住民とで信頼関係を築き協力体制を構築する機会とした。	9月 (日帰り) 1回	116
ワク！ホク！オクトーバーキャンプ	小学校低学年の子どもたちが、親元を離れて共同生活や自然体験を行うことにより、自分に自信をつけ、協調性や社会性を育むきっかけとした。	10月 (1泊2日) 1回	49
ファミリーキャンプ	家族で楽しみながら、ゆったりとした時間の中で活動を行うことで、自然を感じ、日頃の疲れを癒すとともに、家族のコミュニケーションを図った。	10月 (1泊2日) 1回	64

フォレストキャンプ	デジタル機器に触れる機会が増加することにより、様々な体験活動をする機会が減少し、人と人とのコミュニケーションにも変化が生じていることを踏まえ、集団宿泊体験を通して子ども同士のコミュニケーションを増やし、五感を使って、自然への関心を高めた。	11月 (1泊2日) 1回	30
クリスマスファミリーフアンタジー	クリスマスにちなんだクラフトやゲーム等の活動を通して、家族の絆を深めるとともに他の家族との交流を図る機会とした。	12月 (1泊2日) 1回	36
自然の家に泊まろう～Win・win ウィンター～	閑散期における利用率向上を図ることを目的に、家族で自然の家に宿泊し活動プログラムを体験してもらうことで自然の家への理解を深めつつ、家族の交流や心身のリフレッシュを図った。	1月、2月、3月 (1泊2日または2泊3日) 3回	130
ポコポコ登ろうボルダリング	寒い季節の運動不足解消に冬でも楽しく体を使うことができるボルダリングをすることで、運動することの楽しみや、爽快感を感じてもらおうと共にチャレンジ精神を育んだ。	2月 2回 (日帰り)	23
「北杜市放課後子ども教室」 (地域連携事業)	北杜市教育委員会と連携し、北杜市放課後子ども教室として実施する「ほくとワクワク教室」(イベント)に、職員の派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策として、放課後子供教室がおこなわれなかったため、中止となった。	中止	
八ヶ岳星空観望会	光害が少ない清里高原の星空観望を通じて、星座や星空に親しみ、自然に対する興味や関心を高めた。	11月 12月 3月※天候不良により中止 (日帰り) 2回	51
八ヶ岳星空ライブ配信	インターネットでのライブ中継を通じて、八ヶ岳エリアの美しい星空の魅力を発信することにより、普段なかなか施設に来られない方にも、自然に親しんでいただく機会を提供した。	11月 12月 (日帰り) 2回	4,318 (視聴数)
利用者との意見交換会	指導補助者の方々や施設ボランティアを希望する方々に活躍の場を提供した。また、ボランティアと施設職員が連携して行う活動をとおして、豊かな施設づくりを目指し、さらに清里地区全体の魅力づくりにつなげた。	通年 随時	5
地域環境美化事業	地域住民と連携し、自然の家の玄関口ともいえる通称「牧場通り」を中心に、自然の家周辺の環境美化に努めた。	7/11 及び 4、5、6、9、10、11月の第2月曜日 (日帰り)7回	96
KIYOSATO ボランティア隊	指導補助者の方々や施設ボランティアを希望する方々に活躍の場を提供した。また、ボランティアと施設職員が連携して行う活動をとおして、豊かな施設づくりを目指し、さらに清里地区全体の魅力づくりにつなげた。	通年 随時	28

八ヶ岳少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
各種機関連携事業 (共催:協会4施設)	各種関係機関と連携することにより、効果的な青少年健全育成事業を行った。各種プログラム提供や他機関連携事業への職員派遣、事業の協働実施。	通年 随時	
施設活性化事業	関係団体や近隣住民と共同して施設の活性化を図った。 ・つつじ祭り清里ウォークへの協力 ・八丈島教育委員会(海洋道中)への協力	6月 8月(1泊2日) 2回 及び 通年 随時	818
外部団体・講師 紹介事業	青少年健全育成活動の分野における専門的知識及び経験を有する方々を講師として登録し、希望があれば各種団体に紹介し、活動プログラムの充実を図る取り組みとした。	通年 随時	
利用者支援サービス	施設利用者を対象に、体験活動に要する資材を提供することで、利用者サービスの向上を図った。	通年 随時	
「甲運小学校区放課後子供教室」(共催:協会4施設)	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	4月から3月(長期休暇を除く)14回 特別開催2回	94

Ⅲ 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高めるため、安定した経営資源確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的を実施し、施設の利用率向上と収入確保を図った。

(単位 円)

事業名	主な内容	実施時期	経常収益
利用者支援サービス	自動販売機による飲料水の販売等を行った。	通年	2,308,617
プラネタリウム番組配給事業	オリジナル番組を他館へ配給した。	通年	267,139
外部団体提携事業	外部団体と提携し、専門インストラクタ指導による講座を実施し、県民サービスと利用の拡大を目指した。	通年	422,640